



母になるといふことその4

郡司明子
(大学教員)

昨年八月の出産から再び暑

い夏が巡ってきました。今回

でこの連載も最終となり、一

生の宝物ともいえる育休期間

も残りわずか。一年を経ると、

Yが生まれて間もない頃に感

じていた神聖な領域から、母子共にずいぶん

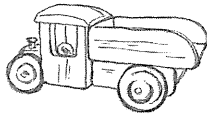
と俗世に降りてきた感があります。今や、Y

は自力で歩行し、他者やモノに積極的に働き

かけたり、やりとりを楽しんだりするように

なってきました。では、Yの9か月頃からお

誕生日を迎えたあたりのことを紹介します。



301日目：寝顔

Yに限らず最近の赤ちゃんはまつ毛が長い、と思っ

た。それだけ世の塵が多い

ということか。せめて世の

中の動向(善悪)を確かな

眼で見抜けるよう、自分の

目は自力で守っておくれ、

とそのまつ毛に願いを託す。

Yの寝顔を見ながら願う。



郡司明子(くんじあきこ)

群馬大学准教授。専門・美術科教育。小学校教諭を経て現職。身体性を重視したアート教育を実践研究中。

324日目：Yの遊び場

大人が入れるほどの大きな段ボールに大中小の段ボール箱をぎっしり詰めて、

それぞれの箱の中には、わが家に届いた荷物の緩衝材

や梱包材、ロール紙などを種類別に入れておく。

Yは好きな箱を引つ張り出して、中身も心ゆくまで出し切つて、あるいは大きな段ボールごと部屋の中を引きずり回し、全身でモノに働きかける。形あるモノとからだとの対話。

ほんと、一瞬
立ち止まよ！
ママ見てた？
314日目 Y



330日目：初発熱

Yの様子がおかしい。買い物帰り、抱っこのままぐったりとしている。からだ全体が熱い。慌てて体温を計ると三十八度七分。これ

は大変！ と、まずは水分

補給。そして、冷蔵庫にある

キャベツや菜っ葉を刻んでこしらえた青菜の枕に寝

かせて様子を見ることに。

その後もたつぷりの食事と

睡眠を繰り返し、しばらく

すると体温は三十七度台に。

この日はYの発熱記念日。

354日目：歩いた！

8歩、トットツとつと、

とつ。そして歓喜に包まれる

わが家。つかまり立ちから

伝い歩き、最近急激に進

歩した立っちからの歩行。

その時々には確かな準備があ

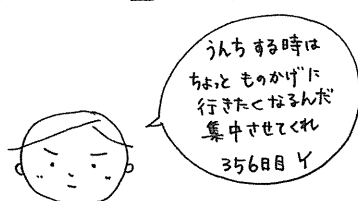
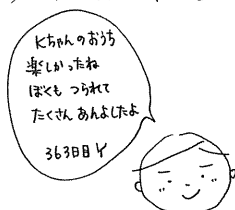
って「いま」がある。

飲みたい、食べたい。
あめほしい、これって、
言いたい時は
みーんな「あはーい」
334日目 Y



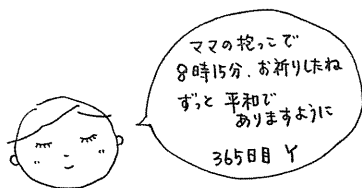
364日目：おつきあい

描画活動に関して、もの本には一歳前後から始まる、とある。Yもそろそろかと、たびたび描画材を整えその場を用意するも、一向に興味を示さず、クレヨンは口に入れてしまうばかり。それでも目の前で描いてみせ、ほら、と差し出すと、「しょうがないな」と言わんばかりに右手で石ころ型のクレヨンを持ち、軽く左右にシャカシャカシャカと動かし、次の瞬間にはフーッと別の遊びへ。記念すべき初描画はYの完全なるおつきあいだった。



365日目：お誕生と日々の記録

この日でYは一歳。母親も父親も同じく一歳。しみじみと新しい家族の一年間を振り返る。というのも日々の記録があつてのこと。Yが生まれた日から、一日一枚、インスタントカメラでYをめぐるあれこれを撮影し、コメントを付してファイルにつづってきた。写真の隣にはY目線のつぶやき（本稿の挿絵吹き出しにも登場）。365日分の記録は、確かにYとYを囲む人やモノがその場に存在し、日々息づいていた証としての集積となっている。

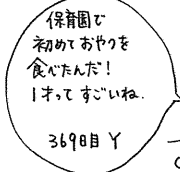


371日目：手づかみと造形活動

Yが手づかみで食べる様子は、まるで造形遊び^{注1}だな、と思う。つかむ、握る、垂らす、広げる、まみれる……。ちっちゃな手を駆使して食材という素材と懸命に向き合うその姿に、人の造形活動の原点に触れる思い。ひとたびおなかが満たされると、豆腐は、その弾力を指の腹で確かめるようにして、感触を味わう。サツマイモ、しっかりと握りしめ、にゅるっと手の中から出てくる瞬間を楽しむ。ヨーグルトが入った器の中に手を伸ば



パパとママが
もめてる時は、一応
両方の味方をいいる
けい、気を使う……
371日目 Y



保婦科
初めておやちを
食べたんだ！
1才、すごいね。
369日目 Y



し、その手でテーブルの上に左右の動きを繰り返す。あつという間に白いフィンガーペインティングの世界が広がる。自らの働きかけで素材が変容するさまに感じ入るY。モノ（素材）に呼びかけ、モノからの応答に耳を傾ける。まさに造形遊びの真髄。……ではあるけれど、何を言っても何を言ってもお手上げの時に、いつそのこと私も楽しむしかない光景。

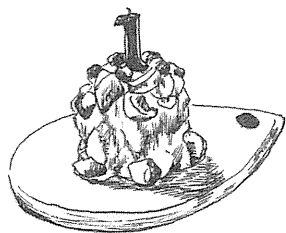
379日目：ライフ×アート展

人のライフ（生・生活・人生）に生まれるアートを、多角的にとらえ表現する展覧会に参加することに。私は、Yとの生活（遊び）から生まれたミニペットボトルを展示した。生活の中で心ときめいたモノや、Yに出会ってほしいモノなどを詰め込んだ百八本。人は生まれると同時にちゃんと欲求があつて、身体機能の拡張とともに自らの世界を広げ、同時に意欲（欲求）も限りなく高まりゆくけれど、百八（煩惱の数）を節目として、この世界の魅力を可視化してみたらどうなる？ という問いから出発した作品。その結果、「美しいものとして世界を『見る』。美しくなる可能性を世界に『見る』。そして、少しの工夫次第で世界を美しく『する』^{注2}」。「このことを自らの手で実感。そして、手元から社会につながる展覧会という場を通じて大事なこ

とに気付かせてくれたYのいる生活に感謝。
おしまいに

出産から一年、果たして私は母親になれたのでしょうか。時折「Y君のお母さん」と声を掛けられると、いまだにこそばゆい思いをします。でも、Yがいることで母親としての私が存在する。深夜、こうして原稿を書いて、泣きの深淵にいるYを救い出せるのは、ほかでもない母親のなせる業といえましょう。

—終わり—



▲ 1歳のバースデーケーキ

1 注

小学校学習指導要領における図画工作科の内容に、造形遊びをする活動を通して行う指導事項がある。

2

佐伯胖「子どもが『アートする』とはーレッツ
ジョ・エミリアの幼児教育から学ぶ」『教育
美術』二〇一二年九月号 (No.83)



▲ライフ×アート展の様子



▲クレヨンを持つY



▲段ボール箱で遊ぶY